

事業報告書

2007年度

自 2007 年 7 月 1 日

至 2008 年 6 月 30 日

特定非営利活動法人 MUKWANO

はじめに

東京都都知事から認可をいただき、2007年10月3日に登記を行い、特定非営利活動法人 MUKWANO が発足いたしました。

本年度は、ウガンダ共和国にて、HIV/エイズ分野におけるエイズ遺児への心理社会、教育分野の包括的な国際協力を通じて、遺児の自立支援とコミュニティの自助自立を促し、子どもの生活の安全と人権が守られる社会の実現に貢献することを目的とし、エイズ遺児のホーム・ホームスクールの建設ならびに運営、基礎教育、職業訓練の充実を目指し、活動を始めました。

国内では、アフリカ、HIV/エイズへの関心を高めるため、小規模ながらも勉強会を開催し、若者のボランティアネットワーク作りに励みました。まだまだ小規模 NPO、手探りの事業展開ではありますが、皆さまの善意がきちんと現地の子どもに直接届くよう、皆さまのご指導をいただきながら、丁寧な事業を運営してまいります。

今後ともご理解、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 MUKWANO

代表 永谷 裕香

事業報告書

1. 生活支援とサポート事業について

(1) 孤児院・職業訓練所建設

前年度、任意団体 MUKWANO からの継続事業である孤児院・職業訓練所建設は、2007 年 11 月、最終工事が完了し、総工費は約 4,300,000 円となった。なお、工事期間中、現地における資材不足、ウガンダ共和国国内の経済情勢の変化による物価高騰などの影響を受け、当初予定していた総工費より、80 万円ほど追加出資せざるをえなかった。

2007 年 12 月 1 日（世界エイズの日）、在ウガンダ日本大使館亀田参事官を主賓としてお迎えし、ウガンダ保健省、ラカイ県庁職員らの来賓を含め、総勢 500 人が参加し、竣工式を執り行い、孤児院の名前を「MUKWANO ホーム」とした。その由来は、この場所を孤児院と呼ぶのではなく、ここを「家（ホーム）」と思い、共に生活をし、育てて行って欲しいという思いが込められている。男子棟、女子棟には、二段ベッド 16 台、マット、毛布、蚊帳など（約 250,000 円）を準備し、子どもたちは、最低の生活ができる基盤ができた。

また 2008 年 4 月から、孤児院の衛生環境改善のため、子ども用のトイレ、バスルームの建設を始め、2008 年 5 月にバスルームが完成。トイレは現在も進行中である（2008 年 10 月完成予定）。工事費は約 190,000 円となった。尚、基礎工事の際には子ども達もレンガを運んだり、セメント用の水を汲みに行ったりと基礎工事の一部を手伝った。トイレの最終工事終了に至るまでには、追加で約 150,000 円の出費が必要であると見込んでいる。



写真：MUKWANO ホーム&スクールの看板 / 竣工式の様子



子ども達もお手伝い



写真：バスルーム

(2) ホームの運営

現地の活動パートナーである現地 CBO Samanya Orphans Group と協議し、両親をエイズで亡くし、子どもだけで生活をしている子どもや両親を亡くした子どもなど、最も厳しい環境にいる子どもら 31 名（男 10 人・女 21 人）を選び、第一期入所者としてホームに入所した。

ホーム においては、遺児同士が協力し、食事洗濯などを行い、毎晩、学習の時間やおしゃべりの時間を持ちながら、遺児同士の連帯を深めている。Samanya Orphans Group のスタッフもホームで寝食をともにし、遺児らの親代わりとして心のケアなどのサポートを行っている。なお、入所者には食事（朝・昼・晩）を提供している。

2008 年 3 月には、現地の大きな課題であった電気の供給を実現するため、「ソーラーシステム」を導入、ホームと教育棟の各棟に光が入り、セキュリティが増した。またこれまでだと、夜 7 時には真っ暗になり、何もすることが出来なかったが、学習することや自由な時間を持つことが可能になった。ソーラーシステム導入には、約 190,000 円かかった。



写真：各部屋についた明かり / はじめての電球に喜ぶ子供たち

基礎教育と職業訓練事業について

Samanya Orphans Group が 2007 年から始めた小学校（認可なしの寺子屋事業。ウガンダの田舎においては、認可なしの学校も稀有ではない）の後方支援を手がけ、「読み、書き、算数」の基本的な教育を始め、現在 180 名の遺児らが通っている。ここをホームスクールと呼ぶ。



写真：授業中の様子 / 農作業する子どもたち

ホームスクールへ通ってくる子どもは、やはり両親のどちらかが亡くなり、今まで距離が遠く、学費が払えないため、学校へ行けなかった子どもが多い。親を知らない、親からの愛情を受けていない子どもらが、このホームスクールを「家庭」として、地域社会すべてを学びのステージとして地域の人にも協力してもらいながら、学び、成長できるようにとの意味が込められている。昼には給食を提供している。

本会では、この生徒らを対象にし、職業訓練事業の第一歩として、農業実習を始めるため、農具を購入した。毎週金曜日は、指導者のもと、全生徒が参加し、キャサバ、とうもろこしの栽培をしている。



写真：給食の様子・主食のマトケをもらうために並ぶ子どもたち
枝ですくってすみずみまでポレッジを食べる

2. HIV/エイズ予防と保健衛生事業について

ホームに住む 31 名の子どもらを中心に、歯磨き、手洗い、部屋や敷地内の掃除、お風呂の徹底など、基本的な保健教育を始めた。エイズ予防については、Samanya Orphans Group のスタッフや、日本人理事などが現地滞在時、必要に応じて積極的に行っている。毎週土曜日には、ホームのリーダーであるセンキマ氏の指導の下、子どもたちは歌や寸劇を通して、エイズについて学ぶ時間を持っている。

3. HIV/エイズ分野におけるリーダー育成事業について

首都カンパラの NGO に務めるウガンダ人スタッフが、4 度ホームを訪れ、リーダーのセンキマ氏、並びに先生に、エイズ教育の大切さを説く。

リーダー育成に関しては、HIV/エイズ分野だけではなく、ホームやスクールのリーダーを育成したいと考え、2008 年 3 月現リーダーのセンキマ氏と、農業部門担当のジョフレイ氏を AICAD 主催の灌漑研修に派遣。4 日間、灌漑についての実践ワークショップに参加した。

4. HIV/エイズ分野における普及啓発事業について

2007 年 11 月から、日本国内において、MUKWANO スタッフによる勉強会を企画し、一般学生や社会人を対象に、アフリカについて、エイズについて関心を持ってもらうことを目的に開催を続けた。第 1 回 17 人、第 2 回 14 人、第 3 回 14 人、第 4 回 11 人、第 5 回 24 人に参加いただいた（なお、第 4 回、5 回は作業部会）。この勉強会を通じて、MUKWANO への支援の輪が少しずつ広がりつつある。

2007 年 12 月 2 日にはレッドシューズファンデーション主催エイズアウェアネスジャズコンサート 2007「愛する人の事を考えました」（国際連合大学と世界銀行が共催）が国際連合大学で開かれ、MUKWANO 理事の青野文子が参加。メッセージを述べた。2007 年 12 月は、12 月 1 日のエイズデーに伴い、MUKWANO の活動が西日本新聞、東京新聞、J-WAVE 各メディアで取り上げられた。



写真：レッドシューズファンデーション主催エイズアウェアネスジャズコンサート 2007

5. 広報活動と募金活動について

2008年5月24日には、TICAD 横浜開催記念写真展「アフリカの日」の関連イベントとして、「アフリカの真珠-ウガンダ支援の日本人たち」と題し、講師の1人として MUKWANO 代表の永谷が講演を行った。

2008年6月21日には、バイオリニスト川井郁子さん、タレントの向井亜紀さんの呼びかけにより、Mother Hand Concert を主催していただき（外務省・世界銀行後援）、ウガンダのエイズ遺児らのためのチャリティーコンサートを開いた（参加者 420 名）。チャリティーコンサートには約 30 名のボランティアが集まり、展示物の設営、パネルや募金箱の作成などを行った。また会場においては、現地ホームに住む子ども、スクールに通う子どもらが製作した携帯ストラップなどを販売、約 220 個のストラップが完売した。Mother Hand Concert の寄付金で、ホームスクール内の机、椅子、また数台の大型タンクの購入を考えている。



(TICAD を前に講演の記事-神奈川新聞)



写真：子どもたちが作った携帯ストラップ・オリジナルTシャツの販売 / ホール内写真の展示

なお、2007年10月、法人格取得後も、ホームページを中心に募金活動を行い、2008年6月30日の時点で、一般寄付 1,073,582 円、会員費 367,000 円、合計 1,440,582 円をいただいた。